訃　報

横田英嗣教授を偲ぶ

朝　倉　利　光
（北海学園大学）

日本光学会元幹事長で東海大学工学部教授の横田英嗣教授が，本年7月24日に心筋梗塞のため逝去された．平均寿命が伸びた現在ではまだまだこれからのご活躍が期待される中に，享年63歳で同教授が逝かれたことは誠に痛恨の極みである．

小生は8月7日にアメリカ出張から帰国して大学に出勤し，電子メールを開けて日本光学会現幹事長岩田耕一氏からの通知として上記のことを知らされ，悲しさのあまりに動転してしまった．横田さん（昔からの付き合いで使ってきたこの呼び名を使わせていただく）を思いながら悲嘆にくれているうちに，現「光学」編集委員長大坪順次氏から電話があり，「光学」への追悼文の依頼があった．小生にとっては横田さんに少々負い目があり，この依頼に対して書かざるを得ない義務感を感じて執筆を引き受けてしまった．しかし後で考えてみると，小生以上に横田さんと親しくしてきた人が東海大学関係者や学習院大学の先輩後輩に沢山おられることを認識し，自分の軽はずみな引き受けを後悔してしまった．このように後悔しながら，横田さんとの過去の付き合いを思い出しつつ，以下で同氏を偲ぶことをお許しいただきたい．

横田さんと初めてお会いしたのは，小生が東大生産研久保田研究室に在籍した大昔の1960年代前半のころであったと思う．彼が学習院大学大学院博士課程在学中に，久保田広先生を慕い久保田研のゼミナールに時折出席しており，そこで親しくなり，二人で話し合うことも多くなった．このような付き合いから，彼の人柄に親しみを感じ，かつ彼の行っていた偏光解析関係の研究に非常に興味を抱くようになった．1966年に小生が北大工学部に異動することになり，併せて助手1人を採用できる状態にあったので，躊躇なく横田さんを候補者に選び，彼と何度か話し合った．しかし，そのときにはすでに彼には東海大学工学部での新しい学科発足への参加の話が進行中であり，最終的には小生の願いは叶えられなくなった．そして，将来への親交を誓いつつ，彼は東海大学，小生は北海道大学へと移った．それ以来40年近く，学会などで会いながら親交を深めてきた．

6年近く前に，小生の日本光学会幹事長の任期終了に伴って次期幹事長を選択することになり，その役に横田さんを強く推薦した．結果として横田さんは幹事長に選出され，1996年度から2年間幹事長の大役を果たされた．この選出前後に，彼とは何回となく東京霞ヶ関ビルの東海大学交友会館でお会いして歓談し，日本光学会への協力とお願いを行った．そのときすでに彼は体に少々の不安があることを話されていたが，小生ができる限りバックアップすることを約束してこの大役をお引き受けいただいた．したがって，彼の幹事長の期間には，彼とは本当に親しく種々の問題を話し合った．そして，小生が幹事長時代に残した学会の種々の困難な問題に彼は全力で取り組み，大部分を解決された．彼の日本光学会への貢献は絶大なものがあり，小生にとっては感謝あるのみである．

1996年春，小生は紫綬褒章を受ける光栄に浴した．その受章記念祝賀会へ，横田さんは札幌まではるばるおいで

になり，お祝いの言葉をくださった．その言葉の中で，「もし私が大昔に朝倉さんの申し出を受けて北大へ来ていたら，褒章に対する研究を共に行うことができただろうし，それができなかったことを残念に思う．また，あのときに北大へ来ていたら，東海大学とは異なる人生があったろう」と述べられ，小生も思わず昔を思い出し，改めて彼のご厚意に対して深く感謝した．

先に記した横田さんへの負い目とは，上記のような横田さんからいただいた小生に対する深いご厚意とご協力に対するものであり，それが彼の死への歩みを早めてしまったのではないかという思いによるものである．以上に横田さんとの私的な思い出を紹介したが，最後に彼の研究と人柄について小生自身の見方から紹介したい．

横田さんは，学習院大学理学部を卒業し，引き続いて大学院に進学し，木下是雄先生の指導の下に研究を行い，博士論文「極薄膜の偏光解析」で理学博士を取得した．

横田さんの研磨加工層を対象にした極薄膜の偏光解析の実験技術は卓逸したものがあり，それにもとづく研究成果は高く評価され，彼は1970年度の応用物理学会光学論文賞を受賞した．その後，横田さんは坂田俊文教授と共に東海大学工学部でわが国初めての光関連学科である光学工学科の設立にあたり，その出発から現在までの発展に多大な貢献をされた．まさに横田さんはわが国初の光関連学科の生みの親の一人である．彼は，偏光解析法の研究から始まり，研究対象を多層の反射防止膜やシリコン表面の酸化膜などの光学薄膜の分野へと拡張していった．その後は，レーザー蒸着やレーザー医工学，プラズマ陰極型イオン源を用いた蒸着法，ホログラフィー，フォトリフラクテブ結晶など多方面の分野で研究を展開して，今日に至っていた．

近年は，横田さんの関心は教育の分野にあったように思われる．光学教育では，特にホログラフィーの実験を中心に，美しい（芸術的な）ホログラフィーの作品を作ることに学生たちと共に励み，かつ楽しんでいたようである．また，教育・研究の観点からすばらしい著書や訳書を出版され，若い人材の育成に尽力されてきた．学生をもとに光関連の若手人材の育成を行い，大企業よりもむしろ中小企業へ人材を送り，企業の発展に多大な貢献をしてきた．横田さんは，親分肌的な所をもちながら，相手に対して気を使う繊細さも同時にもっており，暖かい人柄で，多くの人から深い信頼を抱かれてきた．小生も表面を飾らない豪快な，そして親密感のある彼に魅力を感じて，今日まで楽しい交友を結んできた．

横田さんのあまりにも早い逝去は，悲しく，今でも信じ難いものがある．生前の交友を感謝しつつ，心よりご冥福をお祈り申し上げる．